

〔最優秀賞〕

◇ 題名 個性を認め合う社会へ ◇

葛生義務教育学校 6年 川田 柚月

赤ちゃんの泣き声が聞こえる。赤ちゃんをあやしながら、料理や洗たくなどの家事をしている。

朝早く電車に乗って、会社に出勤する。一日中いそがしく働いて、夜おそくに帰る。

みなさんは、この言葉を聞いて、男性、女性どちらの姿を思いうかべましたか。無意識に、家事をするのは女性を、会社で働く人は男性を想像しませんでしたか。

社会には、育児休業という制度があります。育児休業というのは、子どもを育てるために仕事を休むことができる制度で、法律で認められているものです。育児休業は、女性だけではなく、男性も取得することができます。

しかし、育児休業の取得率は、女性は高いですが、男性はかなり低いことが分かりました。日本では「女性は家の仕事をする」「男性は会社で働く」という、昔からのイメージが強いせいなのではないかと思いました。

なぜ、男性の取得率が低いのか、その理由をくわしく調べてみると、「職場が育児休業制度を取得しづらい雰囲気だったから、または会社や上司、職場の育児休業取得への理解がなかったから」という回答が多くありました。雰囲気も理解も人の心が大きく関わっています。雰囲気をよくしたり、理解を深めたりするには、社会で生きる私たち一人一人の温かな心が必要不可欠だと思います。

温かな心の中でも、個性を尊重する心をもつことがとても大切だと思います。私は、歴史が好きです。そのことを人に話すと、

「女の子で歴史が好きだなんて、めずらしいね。」

と言われることがあります。どうして女の子で歴史が好きなのがめずらしいのでしょうか。また、私の友達は、

「私は青色が好き。」

と話していたときに、

「青色は男の子が好きの色だよ。」

と言われてしまい、悲しそうにしていました。性別だけで相手を見て、判断してしまっているのでしょうか。

「歴史が好き」「青色が好き」というのはその人のもっているみ力的な個性です。

「歴史が好きだなんてすてきだね。」

「青色っていいよね。あなたに似合うね。」

そんな声かけが、一人一人の個性を認める第一歩になると思います。

最近、「産後パパ育休」という男性が育児に参加しやすい新しい制度が創設されたそうです。男性も女性も育児をすることで、個性がかがやく、温かな心をもった子どもが成長するのではないのでしょうか。そして、私も友達に、

「すてきだね。」

「いいね。」

の言葉がけをたくさんして、友達のかがやく個性を見つけていきたいです。